

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年2月10日（火）

2 確認箇所

- ・ Eタンクエリア（図1）
- ・ J8タンクエリア（図1）

3 確認項目

- （1）フランジ型タンクからのスラッジ回収作業及び解体作業の状況
- （2）J8タンクエリアの解体作業状況

4 確認結果の概要

（1）フランジ型タンクからのスラッジ回収作業の状況

Eタンクエリアでは、フランジ型タンクの解体作業が進められており、これまでに全49基中48基の解体が完了している。残る1基のD1タンク（写真1）の底部残水（RO濃縮水）には、アルファ線放出核種が含まれていたため、タンク内のスラッジ等の回収後に、タンク内壁を除染し解体を行う計画となっている。当該スラッジの回収作業は、令和7年11月17日に完了し、タンク内の洗浄作業及び除染作業が進められていることから、その状況を確認した。（前回確認日：[令和7年12月11日](#)）

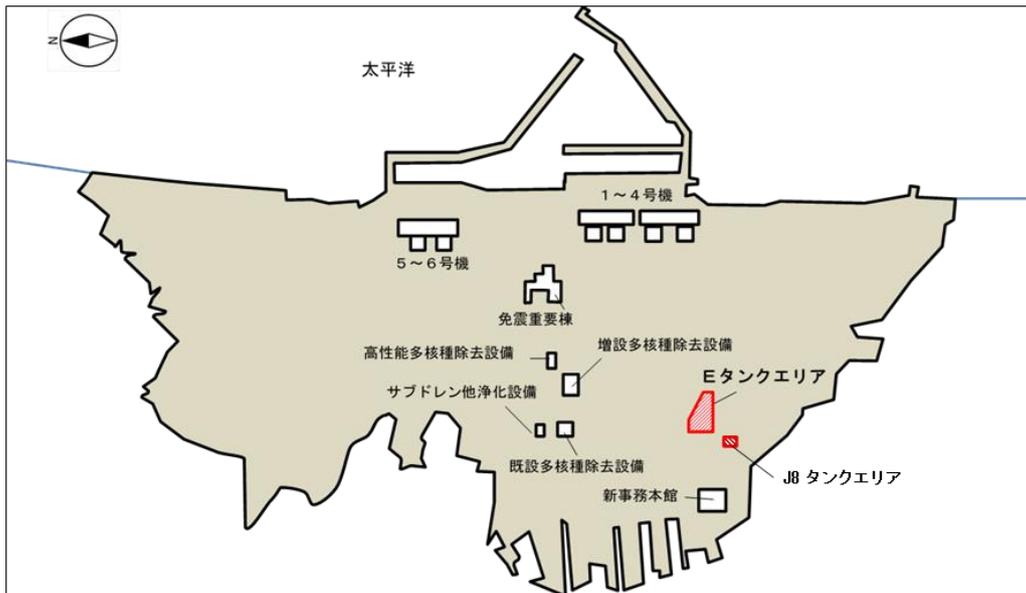
- ・ 墜落制止用器具（フルハーネス型）を装着した作業員が天板上で作業を行っていた。（写真1）
- ・ タンク近くに設置されたコンテナハウス内には、ハウス内の空気中放射性物質濃度を監視するダストモニタが設置されていた。（写真2）
- ・ スラッジ回収用のバキュームポンプが設置されていたハウス内は、前回確認時はR α ゾーンに指定されていたが、今回確認時にはYゾーンに指定が変更されていた。（写真3）
- ・ 廃棄物は放射性核種毎に区別され保管されており、アルファ線放出核種を含む廃棄物は「 α 」と標示されていた。（写真4）
- ・ 確認した範囲では、タンク及び移送配管からの漏えい等の異常は認められなかった。（写真5）

（2）J8タンクエリアの解体作業状況

処理途上水を貯留していたJ8タンクエリアでは、3号機の燃料デブリ取り出し関連施設の建設が予定されている。J8タンクエリアでは令和7年7月から9月にかけてタンク内の処理途上水移送が実施され、同年9月から11月にかけて残水の移送が実施され、同年11月からタンク解体へ向けた準備作業（タンク間の連結管撤去作業や周辺整備工事等）が進められ

ており、解体作業が令和8年1月20日に開始されたことから、作業の状況を確認した。（前回確認：[令和7年11月25日](#)）

- ・ J8エリアの9基中1基目の解体が進められており、取り外された側板はタンク周辺に置かれていた。（写真6）
- ・ 作業エリアは単管パイプで区切られており、関係者以外が不用意に侵入しないよう対策がなされていた。また、重要配管も単管パイプで囲われ、重要配管注意の標示がされていた。（写真7）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1-1）
EタンクエリアD1タンク
（北側から撮影）



（写真1-2）
D1タンク上での作業状況
（南側から撮影）



(写真2)
ダストモニタ



(写真3-1)
回収作業ハウス
(令和7年12月11日 前回確認
時：R α ゾーンに指定)



(写真3-2)
回収作業ハウス
(今回確認時：Yゾーンに指定が変更)



(写真4)
廃棄物の保管状況 (α 核種を含む廃
棄物が区別されている)



(写真5)
D1タンク弁周辺の状況



(写真6-1)
J8エリアタンクの解体状況



(写真6-2)
切断後に取り外された側板



(写真7)
作業エリアの区切り

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。